

「血管系腫瘍における血管新生関連因子の組織学的検討」へご協力をお願い

—平成17年1月1日～平成28年6月27日までに岡山大学病院にて血管肉腫・血管拡張性肉芽腫・老人性血管腫・単純性血管腫と診断された方へ—

研究機関名 岡山大学

責任研究者 岡山大学病院皮膚科・助教 梅村啓史

分担研究者 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科・病態制御科学専攻病態機構学講座・皮膚科学分野・教授 岩月啓氏
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科・病態制御科学専攻病態機構学講座・皮膚科学分野・講師 山崎 修
岡山大学病院皮膚科・助教 加持達弥

共同研究機関 ドイツ・マックスプランク心肺研究所

Laboratory for Cell Polarity and Organogenesis・Group Leader 中山雅敬

1. 研究の意義と目的

血管肉腫は予後不良な悪性腫瘍で、この腫瘍ができる過程において”血管新生”と呼ばれる現象が重要な役割を果たしていると考えられていますが、その詳細は現在に至るまで不明です。本研究ではすでに患者様より採取し、診断に使用した血管肉腫と良性の血管系腫瘍(血管拡張性肉芽腫・老人性血管腫・単純性血管腫)の組織検体を用いて、血管新生に関連する分子がどのように血管肉腫の形成に働いているかを調べます。

2. 研究の方法

1) **研究対象**：岡山大学病院皮膚科で血管肉腫・血管拡張性肉芽腫・老人性血管腫・単純性血管腫と平成17年1月1日から平成28年6月27日までの間に診断された方

2) **研究期間**：平成28年6月28日開催の研究倫理審査専門委員会承認後から平成31年3月31日まで

3) **研究方法**：現在既に存在する組織サンプルの残余検体を使い、診療情報をもとに、血管新生に関係している重要なタンパク質や代謝産物等の発現レベルを調べます。この研究は岡山大学病院皮膚科とドイツのマックスプランク心肺研究所 Laboratory for Cell Polarity and Organogenesis で行います。マックスプランク心肺研究所にすでに採取された組織の一部のサンプルや診療録から得られた情報を個人情報削除した上で送付し、解析します。

4) **調査票等**：研究資料にはカルテから年齢、性別、喫煙歴、飲酒歴、発病時期、生命予後、腫瘍深達度、組織型、TNM(Tは原発腫瘍の大きさ、Nはリンパ節転移の広がり、Mは離れた部位への転移の有無を示す)の病期分類、治療、経過、PET/CT、CT、MRIの検査、血液検査データの情報を抽出し使用させていただきますが、個人情報は削除して匿名化し、個人情報などが漏えいしないよう、プライバシーの保護には細心の注意を払います。

5) **情報の保護**：調査情報は、外部に漏れることがないように、岡山大学病院皮膚科内で厳重に取り扱います。電子情報の場合はパスワードで制御されたコンピュータに保存し、その他の情報は施錠可能な保管庫に保存します。研究結果はあなたの個人情報が分からない形にて論文、学会発表で公開することがありますので、ご了承ください。なお、研究結果を患者さん個人に開示することはありません。また研究終了後5年間は資料を保存いたします。

6) **研究への協力拒否について**：あなたの資料・情報が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象としませんので、平成29年3月31日までの間に下記の連絡先までお申出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様に不利益が生じることはありません。

7) **研究計画書の開示について**:本研究の研究計画書が NPO 法人専門医による皮膚病臨床ネットワーク岡山のホームページ(<http://www.derma-okayama.net/index.html>)にて開示されます。この研究における個人情報の開示は、研究の対象となった方が希望される場合にのみ行います。対象となった方ご本人の同意により、ご家族等（配偶者、成人の子又は兄弟姉妹等、後見人、保佐人）を交えてお知らせすることもできます。内容についておわかりになりにくい点がありましたら、遠慮なく担当者にお尋ねください。

この研究にご質問等がありましたら下記までお問い合わせ下さい。

<問い合わせ・連絡先>

岡山大学病院 皮膚科

氏名：梅村啓史

電話：086-235-7282 ファックス：086-235-7283

(平日)8:15～17:15